

10月11日（火）

先週の金曜日に、デフ・バスケットボールの選手のみなさんのお話をききました。

選手の石川さんや竹本さんは、生まれたときや、とっても小さい頃から耳が聞こえないので、自分の声も聞いたことがありません。私たちは、声を出すとき、「おなかやのどに、これくらい力を入れれば、ちょうどよい大きさの声が出る」とか「舌を口の中のどこに、どんな強さでさわらせると、この音が出せる」ということを、自分の耳で聞いて知っています。でも、石川さんたちは、自分の声も聞こえないから、自分が出す声の大きさがちょうどよいかどうかや、発音が正しいかが、わかりません。

だから、お話をするときも、いつもみなさんが話したり聞いたりしているのとはちがうアクセントであったり、声が大きすぎたり、反対によく聞き取れなかったりすることがありました。でも、みなさんは、よーくお話をする選手たちの顔を見て、真剣に、相手が何を言っているのかをわかろうとしました。とてもすばらしい態度でした。いつも、先生やお友達の話を聞くときよりも、とても真剣に聞いていましたよ。

それから、高学年の人たちは、スクリーンの画面に書いてあることから、相手が何を言っているのかを理解しようとしていました。

あのときのように、聞く人の「わかろうとする」態度や気持ちと、話す人の「つたえようとする」態度や気持ちがぴったりとうまく通じ合うと、すばらしい「交流」が生まれるのです。

「交流」というのは、何かちがったことをしている人どうしや、まったくちがう育ち方をしてきた人たちが出会って、通じ合って、そこから、いっしょに新しい流れをつくってかかわりあっていくことです。

石川さんたちは、これまでに、何を言っているのかうまく伝わらなくていやな気持ちになったり、人と仲良くできなかつたりすることもあったそうです。それで、ひっこみじあんになってしまったり、自分たちの仲間だけで過ごすようになってしまったりする人たちもたくさんいるそうです。今回、石川さんは、自分たちの話し方をみなさんに聞いてもらって、耳の聞こえない人がどんなふうに話すのかを知ってほしかったそうです。だから、もしかしたら、言いたいことをみなさんに分かってもらえないかな、と心配していましたが、みなさんが、「分かった人？」という石川さんの質問に、まっすぐ自信をもって手を挙げたのを見て、とても嬉しかったと言っています。石川さんは、まごころをもって伝えていけば、きっとわかりあえるという強い気持ちで、そうした人たちを誘って、みんなの前でお話をしたり、いっしょにスポーツをしようと呼びかけたりしています。素敵ですね。

そして、その中で知り合った仲間といっしょに、強くてみんなが仲のよいバスケットボールのチームを作って、11月には、アジア大会に出場します。

みなさんは、これから、まだまだ、いろいろな人たちとかかわっていきます。デフ・バスケットボールのことを知り、選手のみなさんと会ったことをきっかけに、さらに、つたえあい、たくさんを知って、生きるのに必要な大切な力を身に付けていけるといいですね。